

千葉県県営林S G E C森林管理計画書に基づくモニタリング調査野帳

調査地No.	南部一		1		
調査箇所名	市町村	経営区	団地名	林班	小班
	鴨川市	南部Ⅰ区	嶺岡県有林	1	ろ
調査日時	令和7年9月22日14時00分				
調査者					
主な樹種、林齢	スギ7年生（平成31年3月植栽・0.42ヘクタール） スギ5年生（令和3年3月植栽・0.40ヘクタール）				
実施作業種	なし		作業前・後	任意	
主な施業履歴	実施年月	施業概要			実施面積
	令和2年7、8月	下刈1回刈			0.42ヘクタール
	令和3年3月	再造林（0.40ヘクタール）・補植（0.42ヘクタール）			0.82ヘクタール
	令和3年6、7月	下刈1回刈			0.82ヘクタール
	令和3年9、10月	下刈2回刈			0.82ヘクタール
	令和4年7、8月	下刈1回刈			0.82ヘクタール
	令和5年8、9月	下刈1回刈			0.40ヘクタール

区分	チェック項目と視点		写真撮影
生物多様性の保全	施業箇所の状況	下草植生の発達が進んでいるか。	No. 1 No. 2 No. 3
	全面において草本、陽樹等による植生の回復が認められる。		
	広葉樹等の保全状況	伐採施業地及びその周辺において、生物の生息の場となる倒木、営巣木、樹洞のある木、人工林に侵入した広葉樹等について施業に大きな支障のない限り積極的に残置しているか。	No. 4
	林縁の広葉樹（ヤマグワ、スダジイ、バクチノキ等）は主伐の際、搬出作業の支障となることから伐採したが、現在は萌芽による再生が認められる。また、造林木の成長に支障のない広葉樹については、下刈の際に極力残置した。陽樹はクサギやタラノキ等が見られた。		
	希少種の生育状況、外来種の進入状況	どのような植物が自生しているか。保護すべき希少種や駆除すべき外来種が含まれていないか（種が同定できるものを記録すると共に、種が不明のものについても可能な範囲での同定に努める）。	No. 5 No. 6 No. 7 No. 8 No. 9 No. 10
	広くススキやイタドリが優占する。シャガ、アジサイ類が咲いており、リョウメンシダ、ゼンマイ等のシダ類が見られた。また、カラスウリ、ツユクサも一部に見られた。		
環境負荷軽減	地表面の保護	作業道や一時利用の集材路の開設においては、地表面の切削、土砂の移動は必要最低限とするよう努めているか。	No. 11
	主伐作業時に、地表面の切削を最小限にするよう努めたことから、現在も特段の地表面のかく乱は認められない。		
	水質汚濁の防止	作業道や一時利用の集材路の開設においては、波型縦断勾配の採用及び横断排水施設の設置を行い、路面水は極力分散排水するよう努めているか。	No. 11
作業道作設に当たっては、土砂掘削量を最小限にするよう努めたことから、現在も地表流による顕著な土砂移動は認められない。			

生態系の生産力及び健全性の維持	伐採後の適切な更新、保育	①植栽地の生育は良好か。 ②補植が必要な場合は実施されているか。 ③必要な保育が適期に実施されているか。	No. 12 No. 13
	①生育状況	造林木の生育は良好である。	
	②補植	補植の必要はない。	
	③適期施工	—	
	その他	なし	
	病虫害被害、気象害、獣害被害の発生状況	被害が発生、拡大していないか。	No. 14
	①病虫害被害	なし	
	②気象害	なし	
	③獣害	造林木への被害は見られないが、イノシシと思われる掘り返し跡及び獣道が見られた。	
	その他	なし	

千葉県県営林S G E C森林管理計画書に基づくモニタリング調査野帳
【状 況 写 真】

調査地No.	南部一 1	調査日	令和7年9月22日
No.	写真	説明	
1		全景 1 令和2年3月主伐 令和3年3月植栽範囲	
2		全景 2 令和3年3月植栽範囲（右）と 平成31年3月植栽範囲（左） の境界部	
3		全景 3 平成31年3月主伐・植栽範囲	
4		広葉樹等の残置状況 (ヤマグワ)	

5		下層植生の状況① (平成31年3月植栽範囲)
6		下層植生の状況② (令和3年3月植栽範囲)
7		林内の下層植生①(ツユクサ類)
8		林内の下層植生②(アジサイ類)
9		林内の下層植生③(ウリ類)

10		林内の下層植生④(フキ類)
11		一時利用の集材路の状況
12		造林木の状況 平成31年3月植栽範囲
13		造林木の状況 令和3年3月植栽範囲
14		イノシシによるものと思われる掘り返し跡及び獣道